

令和 2 年 1 月 31 日

【図書名等】 職長の安全衛生テキスト

コード No.25260 第 4 版 定価：本体 800 円＋税
(コード No. 定価 (本体) 変更なし)

【発行日】 令和 2 年 1 月 31 日

【改訂の概要】 (「該当頁」は、新版 (第 4 版) の頁を示す。「旧版」とは、第 3 版を表す。)

改訂のあらまし	該当頁
法令改正による記述の見直し (「安全帯」→「墜落制止用器具」、「VDT 作業」→「情報機器作業」等)、JIS Z 7253 の改正に応じた図の修正、統計数値の更新のほか、全般にわたり記述を見直し、用語の統一、表現の調整など所要の修正を行った。	
労働安全衛生法に基づく教育事項 (労働安全衛生規則第 40 条) ・「法第 60 条第 3 号に掲げる事項」に「又は第 57 条の 3 第 1 項及び第 2 項」を追加	4
第 1 編 職長の役割 ・イラスト中の文字を修正	14
・表 1-1-4 のタイトルを修正	16
・図 1-1-2 を修正	20
第 2 編 職長の職務 ※ 各章の「この章で学ぶこと」「まとめと討議テーマ」を見直し、語句修正等を行いました。	
第 3 章 適正配置 ・1 (2) の文章を修正 (段落の順番入れ替え等)	43～44
・図 2-3-2 を修正 (最新の統計数値)	47
・「(参考) 労働安全衛生法に基づく資格等の概要」の表中、「免許」の項を「衛生管理者・作業主任者」「就業制限業務に係る資格等」に区分して組み直したほか、特別教育の追加等の修正	53～55
第 4 章 設備の改善 ・5 (5) を「飛来落下や崩壊、倒壊のおそれがある場所や設備」とした。	60
・5 (5) ①アの「防護柵」を「防護棚」に修正	60
第 5 章 環境改善の方法と環境条件の保持 ・表 2-5-2 中、「温熱湿度条件」の項の「具体的な作業」の欄に「冬季の屋外作業」を追加	63
・1 (2) ①「硫化水素中毒」の見出しを「酸素欠乏症および硫化水素中毒」とし、記述を大幅に見直し (「② 酸素欠乏症」は削除し、③は②に、④は③に、以降ひとつずつずれる)。表 2-5-6 (一部修正) と表 2-5-7 (一部修正) を入れ替え。新たに「表 2-5-8 酸素欠乏危険場所の概要」を追加。	71～75
・上記の表の追加に伴い、旧版の表 2-5-8～表 2-5-20 は、表 2-5-9～21 となった。	74～99
・表 2-5-11 (旧版：表 2-5-10) のタイトルを変更し、内容を修正	75
・1 (2) ⑥「化学物質管理の充実強化」(旧版：⑦) 中、「平成 29 年にはオルトトルイジンが特化則に」を「平成 29 年にはオルトトルイジン、三酸化二アンチモンが特化物に」と修正	79
・図 2-5-5 を大幅修正	80
・図 2-5-6 の注釈をフロー図の右側に移動	82
・2 (2) イ⑥の墜落制止用器具の説明に、フルハーネス型を原則とすること、6.75m を超える高さではフルハーネス型でなければならないことを追加	86
・図 2-5-7 のタイトルを変更、内容を大幅修正 (転載元図書の改訂のため)	87
・表 2-5-18 (旧版：表 2-5-17) 中、保護具の種類欄の「防じんマスク」を「防じんマスク、電動ファン付き呼吸用保護具」とし、同項中、「エ. 排気弁」を「エ. 排気弁 (吸気弁)」とし、エの次にオ、カを追加	88～89
・「●電動ファン付き呼吸用保護具」を削除	旧版 89
・表 2-5-19 (旧版：表 2-5-18) のタイトルを変更、内容を大幅修正	90
・4 (4) 「受動喫煙の防止」の説明を大幅修正	94
・図 2-5-9 を修正 (最新の統計数値)	97

・図 2-5-10 を修正（転載元図書の改訂のため）	97
・5 (5) の説明中、「①日常的に部下と接する現場の職長が行うケア」「②職長の具体的アクションとして」を追加	98
・表 2-5-21（旧版：表 2-5-20）を修正（転載元図書の改訂のため）	99
・図 2-5-12 を 2 色化	100
第 6 章 整理整頓と安全衛生点検	
・表 2-6-8 中、「せっけん水」を「発泡性の漏れ検知液等」とした。	113
・「局所排気装置チェックリスト（例）」を一部修正（「フード」の 2 の判定基準を「煙が逃げないこと」、「フード」の 4 の判定基準を「障害物がないこと」とした。）	116
第 7 章 作業手順の定め方	
・2 の説明の③中、「急所」を「急所および急所の理由」とした。	119
・3 (1) の説明中、フロー図を修正	120
・3 (2) の表の「1 対象作業の決定」の項中、「決定する」の前に「対象作業として」と追加	121
第 9 章 異常時における措置	
・旧版における 2 の「(1) 作業設備および作業環境の異常」「(2) 作業者の行動の異常（不安全な行動）」を、表 2-9-1、表 2-9-2 とした。	135～136
・表 2-9-1（旧版：(1)）中、「設備の異常」の⑥の「破壊版」を「破裂板」と修正、⑧に「腐食劣化」を追加	135
第 10 章 災害発生時における措置	
・1 (1) のイラストで、上から 1 行目、中央のイラストを左右反転	141
第 11 章 リスクアセスメントの実施とその結果に基づくリスク低減措置	
※ 章全体にわたり、3 要素についての説明を見直しました。旧版で「負傷又は疾病の重篤度」「危険状態が発生する頻度」「危険状態が発生した時に負傷又は疾病（災害）に至る可能性」としていましたが、用語および順番を見直し、「危険状態が生じる頻度」「危険状態が生じた時に災害に至る可能性」「災害の重大性」とし、それらの中身も見直しました。	
※ 章全体にわたり、「優先度」「優先順位」の用語を見直し、優先して低減措置の検討や実施を行うリスクを表す度合が「優先度」、リスク低減措置を検討する際に優先すべき措置の順位（本質的対策＞工学的対策＞・・・）を「優先順位」としました。	
・図 2-11-2 を修正	151
・旧版の表 2-11-3 のタイトルを「災害の重大性の区分例」とし、内容を差し替え、表 2-11-5 とした。	152
・表 2-11-4 を削除	旧版 151
・旧版の表 2-11-5 のタイトルを「危険状態が生じる頻度の区分例」とし、表 2-11-3 とした。	151
・旧版の表 2-11-6 のタイトルを「危険状態が生じた時に災害に至る可能性の区分例」とし、内容を差し替え、表 2-11-4 とした。	151
・図 2-11-3 のタイトルを変更し、内容を修正	152
・【数値化の具体例】の 1 の①～③の順番を変更し、④を大幅修正（リスクポイントの修正、欄の変更等）	154
・図 2-11-4 を修正	158
・5 (1) の末尾に、爆発・火災等防止のためのリスクアセスメントについて追加	160
・表 2-11-7（旧版：表 2-11-8）を、前記【数値化の具体例】同様に修正	162
・事例 1～4 の説明とリスク見積りを修正	163～166
・事例 5 のリスクレベルをⅢに修正	167
第 12 章 労働災害防止についての関心の保持および労働者の創意工夫を引き出す方法	
※ 章全体にわたり用語を見直し、一部残っていた「安全衛生管理方針」「安全衛生管理計画」といった用語を「安全衛生方針」「安全衛生計画」としました。また、計画のうち、事業場単位や部・課単位のもの「安全衛生計画」、職長の職務範囲のものを「(職場の)安全衛生実行計画」としました（「現場の実行計画」の語は削除）。	
・図 2-12-2 を修正	174
参考 1 職長の立場よりみた労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）	
・冒頭の説明文全体を差し替え	178
・図 1-1 を修正	182
・図 3-1 を修正	193